

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	耕作放棄地と余った森林資源を利活用した特産品開発事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 ねばのもり
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 ウ 森林づくりと林業の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	493,851 円 (うち支援金: 385,000 円)

事業内容

蒸留機を用いて、根羽村地域内で栽培できる植物や木々を生かした特産品開発を行う。開発した特産品開発を通じ、栽培における耕作放棄地の利活用や森林資源を通じた地域活性化や景観整備につながることを期待した。
新型コロナウイルスの感染拡大等により、計画した事業をすべて実施することができなかったが、試作品づくりや、ワークショップを通じ、今後の方向性を見い出せた。



【森にある樹種を1つ1つ匂いを確認しながら採取するワーク



【蒸留の様子。杉と檜のチップにて実施】

事業効果

- 根羽村森林組合の森林資源の新たな利活用
森林組合で2022年度から制作を開始した木質チップと蒸留の相性が良いことがわかり、1つの特産品開発としての可能性が見えた。
- 体験コンテンツとしての利活用
今回栽培はできなかったが、2023年1月に森林にある既存資源を使って、植種に詳しい人のガイドをもとにオリジナルアロマをつくるワークショップをトライアルし、体験としてかなり面白い結果を得ることができた。また、3種類の試作品ができた。
- 試作品を踏まえた特産品の方向性
今回のワークショップを通じてアロマオイルより蒸留水に可能性があることがわかった。蒸留水の利用用途としてはテントサウナでの利用や、飲料としての可能性があることがわかった。また虫除けスプレーにも適していることがわかり、来季に向けて実施を試みることにした。

今後の取り組み

ワークショップ等の実施により商品の可能性として、「蒸留水」の方向性が見えてきたことを踏まえ、2023年度では利用用途から逆算した植種の栽培を行う予定。耕作放棄地や空き山での植樹を通じて植物の栽培を行いながら、商品開発を形にしていきたい。また、今回の活動を通して得た新たな発見（虫よけスプレーの可能性、サウナへの活用など）についても、今後検討していきたい。

【目標・ねらい】

- 村内には利活用できていない空き耕作地や、森林資源が豊富に残っている
- 訪問者向けの新しい特産品の可能性として、ハーブや森林資源を使ったアロマ精油やアロマウォーターの特産品開発
- 空き時間にできる仕事として、地元の子育てママや高齢者等の小商いへの発展も期待でき

※自己評価【B】

【理由】
新型コロナウイルスや、近年の社会情勢により、設備の納品が遅れたため、すべての活動が満足にできたわけではないが、一定の効果を得られたとともに、新たな可能性を見出すことができた。